

となりました。

実は、原稿を書いている今日は十一月十七日、第九回校内マラソン大会が開催された日です。先週、普通車運転免許取得についての説明会が行われ、少しは『卒業』を意識するようになったのかと思う時期です。

最終学年を振り返ってみると、バス遠足での溢れる笑顔。

他の学年を圧倒したクラスマッチでの団結力。夏休みの一日体験学習では、未来の清風生のために汗だくになりながら中心となって活動してくれました。体育祭の色別パフォーマンスでは、一・二年生に熱心にアドバイスをし、一致団結する姿、悪天候で中止になるのを何何でも食い止めようとする姿を今でも鮮明に思い出します。今日のマラソン大会では、必死にゴールを目指すが姿だけでなく、

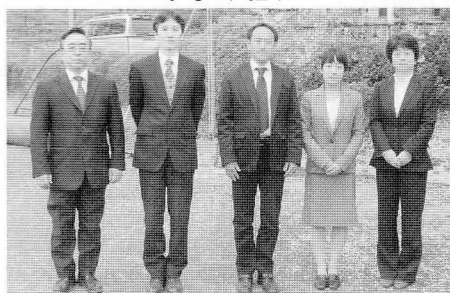
一・二年生の見本となる行動ができていました。どれも足利清風高校に入学したからこそできた経験であり、かけがえない思い出となったことでしょう。どんな場面を振り返っても『成長』したみんなの姿に『感動』です。思い出すだけで涙が溢れてきそうです。

三年生に進級し、進路決定に向けてだけではなく、資格取得等に向けても『自信』を

持つて勝負できるように、担任一同、生徒の夢の実現のために精一杯頑張ってきました。保護者の皆様には、ご迷惑をお掛けした場面もあったことと思いますが、七期生の生徒として入学させてくださったことにただ『感謝』です。本当にありがとうございました。



3 学年担任



5組 川村先生
4組 新築先生
3組 梁宮先生
2組 富田先生
1組 桑山先生



東京ディズニーランドへのバス遠足

凄いぞ日本！識字率世界一

学習指導部長 鈴木 元

識字率についてユネスコでは、「15歳以上人口に対する、日常生活の簡単な内容についての読み書きができる人口の割合」と定義しています。日本人の識字率の高さは有名で、数百年に亘って世界一を誇っています。江戸幕府末期の武士において、ほぼ100%の人が読み書きできたと言われていました。庶民層でも男子の半数は読み書きができたそうです。同年代のイギリス下層民は、大都市のロンドンでも10%程度の子どものしか字が読めなかったそうですら、凄いことです。

日本人の識字率の高さについては、多くの外国人が、驚嘆し、記録を残しています。一八五三年に黒船を率いてアメリカからやって来たペリー提督は日記『日本遠征記』に、日本について「読み書きが普及して、見聞を得ることに熱心である」と記しています。

この識字率の高さが、日本が第二次世界大戦後、焼け野が原から僅か10年で高度経済成長に突入し、23年で世界第2位の工業国になれた理由の1つにあげられます。産業に関わる全ての人々に技術の伝達や危険の周知ができ、さらに知

的レベルが高く、「高度成長の変革」に多くの人々が対応できたためです。

生徒にもこれから展開される「ダイナミックな社会の変化」に対応するために、高校生の時期に多くの知識を習得して欲しいと願うばかりです。家庭と学校で協力しながら取り組んでまいりましょう。

「スケアードストリート 交通安全教室」

交通指導担当 深沢 寛是

交通事故を未然に防ぐのは難しいのかもしれませんが、事故の怖さについて聞いたことがあっても、実感がよくわからないのです。結局「まさか自分には遭わないだろう」という油断につながります。

そこで、「事故を実演し」その怖さを目の当たりにするという方法（スケアードストリート方式）の交通安全教室があります。本校では、去る10月13日にスケアードストリート方式による交通安全教室を開いていただきました。

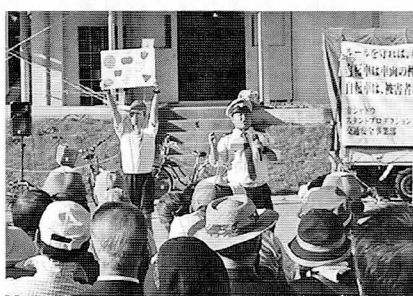
実際に目の当たりにした交通事故の激しさに、誰しもが驚きを隠せませんでした。自動車と自転車、自転車同士との衝突事故はすさまじく、プロであつても大丈夫かなと心配してしまうほどでした。事故の大きな音からは、すさまじ

い衝撃を感じ取ることができました。

途中、スタントマンが起き上がる、本場に事故が起ころうとしたかのような場面もありました。それは演技だったのですが、我々は事故の恐ろしさというものを生々しく感じる事ができました。最後に、生徒に素晴らしい交通安全教室を開いてくださった、シャドウ・スタントプロダクション、栃木県警察本部、足利警察署の皆様には、深く御礼申し上げます。



交通事故実演の様子



警察の方々による交通講話